

神奈川県学童保育

第56回全国学童保育研究集会

— リモートで繋がる4612人・44都道府県 —

第56回の集会は感染拡大防止のためオンラインで開催されました。2021年10月23日は全体会、24日は多彩なテーマの分科会が準備されました。今年は国連協が直接開催準備を進め、一部の都道府県連協が実施に協力することで実施されました。そのため、「全国研 in○○」という形で、地方の特色を出すという取組や交流会の開催はありませんでした。

◆リモートで参加拡大—神奈川県からの参加も増加

参加数は、44都道府県4613名で通常開催と大きな変化のない集会の規模として実施できました。これは、例年開催の場合は現地からの大勢の参加が期待されていますが、条件が異なる中で参加数が維持されたのはリモート開催の「参加のしやすさ」かと考えられます。

年に一度の、「学童仲間」と顔を会わして励ましあえる貴重な機会とはならなかったのは残念でしたが、研修の中身は濃く、貴重な学びの機会となったのは例年どおりでした。

神奈川からの参加は、全国連協集計で346人でした。例年の県外開催と比べると1.5倍の参加でなっています。これも交通費などの費用面での負担が軽くなるリモートの参加のしやすさや、神奈川県連では、リモート研修に力を入れ取り組んできていることの結果かもしれません。

◆リアル会場は東京の日本教育会館(全体会)

全体会当日は、講師の希望などもあり、少人数でのリアル聴講が行われました。会場は東京神田の日本教育会館で、総人数で60名程度。その半数が準備要員という、大きな部屋でのミニな「全体会」になりました。

厚生労働省の後援ということで、家庭局子育て支援課健全育成推進室室長補佐からビデオメッセージが届けられました。壇上での2人の来賓紹介、基調報告、『日本の学童ほいく』普及拡大アピール(ちょっと笑える演出がGooooo!)。山形県学童保育連絡協議会によるビデオメッセージには「よくがんばった!」と声をかけられました。熊本から報告された、平成28年熊本地震・令和2年7月豪雨への支援の取組、宮城・福島からは、東日本大震災で被災した地域の活動報告。この特別報告からは、学童保育を支える組織である「連絡協議会」などの大切さが伝わってきました。

全国連協・西田隆良会長による基調報告は、オンラインの特性を踏まえ、スライドを用意し、今までにない形で報告となりました。この事前に準備された内容がビデオ放映で十分に活用されていないように見え、ちょっと残念な構成でした。

◆記念講演は「学童保育の歴史から学び、未来を拓く」

石原剛志先生(静岡大学教育学部教授)が「学童保育の歴史から学び、未来をひらく——前例のない課題に立ち向かう」と題して記念講演を行いました。学童保育の歴史は十分に解明されていない分野でもあり、今後一層の研究の進化为求められる。その出発点として「前例のない課題に立ち向かう」ことの大変さと意気があふれていました。

◆神奈川県連協も超活躍!! の分科会

分科会は、各都道府県連絡協議会が配信を分担し、27テーマ39教室に分かれて交流・学習しました。そのうち神奈川県連協は、横浜・横須賀連協と協同して3分科会を担当するという大任をはたしました。一部では開講が大幅に遅れるなどのトラブルもある中、県連担当分科会は順調に展開、内容的にも成功させることができました。

◆リアル全国研恋し!? しかし……

「ご当地ならではの」を探す楽しみの全国研。異形の名物のあの人とはちょっと探してみる全国研。何よりひと・ヒト・人で、これが全部学童保育の仲間か!との思いが勇気を沸かしたてる、というリアルな全国研。

これはオンラインでは得難いことは承知ですが、それでも「やはり残念」という方もいるのではないのでしょうか。しかし、全国津々浦々、宿泊費も交通費も心配なく参加できることで一歩踏み出した人も多かったからこそこの全国研の成功であり、神奈川の1.5倍の参加ともいえます。

◆「リアル」は大切に、「オンライン」で広めて、

何と言っても「学べた!」は全国研の一番の成果。どんな困難でも手だてを探して実現する心意気が「学べた」ことへの感謝の言葉に現れています。

神奈川県連協では、その手だてをオンライン研修に活かし継続的に実施しています。皆さんと共に、オンライン研修を活用して、学びの機会を増やし、より良い学童保育をつくり、年明けの「かな研」集会の成功に結び付けられたらいいですね。



2021年度「秋の学習会」を開催

10月10日(日)桜木町健康福祉センターにおいてzoom併用で行いました。

講師は、全国学童保育連絡協議会事務局長、東京都文京区指導員の高橋誠さんをお願いしました。

コロナ禍の中の学童保育、子どもの安心安全を守るために。子どもを守り、指導員は、自らも守り、心のケアが必要です。コロナ禍の中、人と人とのつながりが分断されました。だからこそ、人と人とのつながりが求められます。悩みの時、支えになるのは運営指針です。とお話がはじまりました。

講義の内容は、この間の施策の動向のあと(資料参照)

1、運営指針の実践的目的、2、運営指針の3つの視点、標準仕様、育成支援とは、生活づくりとは、ということ、運営指針と、運営指針解説書を並行にした資料を基に(大変わかりやすい表でした)、その中に、高橋さんの実践を交えながら、お話をさせていただきました。

講義のあと、質疑応答の時間がありました。内容は、

コロナ禍での状況でもありますが、増山均さんは、様々な問題はコロナ禍で始まった問題ではない。以前からあった問題なのだ。コロナ禍で露呈した。とおっしゃっています。指針が出てから5年たちました。わいせつ、指導員の虐待、子どもの最善の利益をどう守るかを改めて思いました。コロナ禍で最も伝えたいメッセージは何かありますか

それに対して、高橋さんは、生活づくりは、保護者、指導員、子どもが結びついていこうよということ、指導員も保護者もつながるのが難しいのだけど、創意工夫して頑張ろうとしています。子どもの顔がわからないという保護者たちに、目黒区の指導員は、子どもの顔の紹介をした事例。保護者会ができなかったけど、zoomで始めた工夫。お便りに子どもの名前を全員載せる。連絡帳とのやり取り。そういうことをやめてはいけないということです。

子どもが、性的な被害、暴力を受けていることは本当に許されないことです。一方で、現場の指導員が子どもの暴力を受けている悩みもある。指導員も大事にされる権利がある。子どもがなぜそういうことをするのか考える。子どもの理解をすること。指導員も子どももお互いが大事なのだよ。と伝えることが大事だ。保護者との連携。一緒に子育てを楽しむことが大事だと思います。

もうおひとりの質問は、認定資格の講義を一気に受けた気分です。今日は、指針の一つ一つにうなづくことがありました。連携が魔法のようで、回っていないなあ実感があります。相手が連携を求めている。そこを確認できればいいなと思った。保護者組織を支援する。なぜ連携をするのか。指針の保護者の部分を読み解くことができればいいなと思った。信頼関係のことは重く響きました。

高橋さんは、学校に便りを配る。養護の先生にも配るなどできると思う。新人のころ、前任の指導員は大ベテランだった、そのことで保護者会の親たちから自分のことを不安だという声はなく、大切にされたなと思う。保護者と一緒に子どものことを考えることができたことが自分にとって意義のあることだったと思います。

お申込みは2月1日までに!

第45回神奈川県学童保育研究集会

日 時：2022年2月13日(日) 10時00分～16時00分

開催方法：Zoom ミーティングによる

参加費：2,000円/人(全体会のみ、分科会のみでも同額です)

申込方法など詳細は
県連協 HP のリーフレット
をご覧ください

午前(全体会) 10時00分～12時00分

記念講演 子どもとともに今を生きる～一人ひとりを受けとめ、だれのことも排除しない支援を～
講師 杉田真衣(東京都立大学准教授)

午後(分科会) 13時00分～16時00分

①ようこそ学童保育へ～保護者と指導員でつくる子どもの居場所～/②これからの感染症対策～新型コロナを軽視せず、悲観せず～/③子どもに向き合うときに大切にしたいこと～からだところに関わる立場から～/④子どもとインターネット/⑤障害のある子どもの理解と生活作り～受け入れから保護者理解まで～/⑥アンガーマネジメントを学ぶ～怒りの感情と上手につき合うには～/⑦子ども同士のかかわりについて語りあい、確かめよう(グループ交流)/⑧子どもの生活を伝えあう/⑨神奈川県の学童保育の現状と課題～保護者負担の軽減と法人化の問題を考える～

拡大運営委員会を開催しました

10月10日(日)、秋の学習会同日午前中に、これも恒例となっている拡大運営委員会を開催しました。

オンライン併用で行い、9地域28人の参加がありました。今回のテーマは、「市への要望（内容及びその背景）と要望活動について」。小神会長からの「感染者は減ってきたが、コロナ第5波の大きな波があり、学童保育も夏休みの影響などにより大きな影響を受けた。全国的にみると、地域によってはおやつの中止などされている。今日の拡大運営委員会では、コロナにとらわれず、いろいろな条件や環境づくりなども要望に反映できるような交流をしていきたい。」とのあいさつののち、4つのグループで交流を持ちました。

参加者からは「初めて参加しましたが、各市のみなさんの話を聞いて大変勉強になりました。」「限られた時間内で要望書の内容や工夫されている事、聞いてみたいことのやりとりをするにはグループで行う形がとても良いと感じました。事前にいただいた資料の内容を当日丁寧に説明していただいたのでより深く理解することが出来ました。またそれにより他の市連協の方に聞いてみたい事が生まれてきていたように思います。今回参加させていただき、要望書の内容が改善されるまで後続して出し続ける事の重要性、また、最重要項目を強調する工夫など学ばせていただきました。」などの感想をいただきました。



私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りで、気になった記事、話題にした内容をご紹介します。

10月運営委員会でのおすすめは横須賀市指導員の飛鳥井さんからです。

10月号より増山先生の連載が始まりました。少し難しい内容ですが、P.50～51『もし「健全な育成」があるとなれば、それは子どもたちが健康に成長・発達できる環境を保障することであり(中略)「健全な子ども像」「期待される人間像」に合致させるための指導をすることではありません。』は先生が特に伝えたい内容かなと思います。自クラブの保護者会でP.51の読み合わせをしました。

そして、11月は平塚市指導員の西岡さんからのおすすめです。

11月号「学童保育における『おやつ』—直面する課題と求められる役割の両面から」(P.10～)

また平本先生の話になりますが(全国研の分科会報告や平本先生の著書紹介があったため)...

「子どもの主体的な参加」について書かれていますが、まさに自クラブでは「子どもからリクエストを聴く」ことで子どもが主体的に参加していると考えていました。

しかし、例えば、チラシを一緒に見ているときに「これおいしそう」や「これ食べたいね」などの声が子どもから聴こえていたのを思い起こすと、もっとできることがあるのかなと思いました。

皆さんも指導員同士、保護者会などで読み合わせたり、話題にしたりしてみてください。

2021年11月号～12月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2021年11月号> 特集「「たのしく食べる おいしく食べる♪」—学童保育のおやつ・食

☆ 子どものひろば 莞奈さん〔横須賀市2年生〕

※地域連絡協議会のページ 「第39回横浜学童保育研究集会」

<2021年12月号> 特集「共に子育て」—保護者と指導員の伝えあい

★ 特集『「伝える」ことが支えになった』 田村明日香さん〔横須賀市指導員〕

☆ 子どものひろば 友花さん〔横須賀市2年生〕

◆ 私のおすすめこの絵本 「木をかこう」 藤井春美さん〔相模原市指導員〕

☆ 読者のひろば 「私たちにできること」 満野美由紀さん〔横須賀市保護者〕

「雨の日の発掘作業」 岩澤敬子さん〔横須賀市指導員〕

活動報告(2021年10月～2021年11月の主な活動報告)

10月8日(金) オンライン研修会第6回
 10月10日(日) 県連協拡大運営委員会(AM)
 10月10日(日) 秋の学習会(PM)
 10月15日(金) オンライン研修会第7回
 10月17日(日) 全国学童保育連絡協議会総会
 10月23日～24日 56全国学童保育研究集会

10月29日(金) オンライン研修会第8回
 11月12日(金) オンライン研修会第9回
 他 第1木曜日 定例運営委員会に付随し、定例役員会、定例事務局会議を実施
 45回かな研に向け実行委員会も始まりました。

♪ 平塚市連協だより ♪

平塚市学童保育連絡協議会(以降「市連協」)は、平塚市で学童運営費の一部補助が予算化されるより前の1972年に『つくる会』が発足し、1977年より市連協としての活動が始まり45年目になります。

45年という時の流れの中で学童を取り巻く環境は色々と変わりました。学童の必要性が理解され予算がつき、市の事業として確立され、金額も増えました。保護者会以外の運営団体も増え、平塚市内で保護者会運営を続ける学童は、支援の単位全体の1割程度にまで減少しました。

皆さんもご存知の様に変化したことはまだまだありますが、ここからは『市連協の変化』にフォーカスをあててお話ししたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の流行による生活の変化や行動制限により、市連協も他の地域連協同様、オンラインでの活動を軸とした活動が続いています。

オンライン会議となり会議に参加するメンバーの負担感軽減になった面もありますが、対面だとあるふとした交流や会話が生まれにくい面もあり、交流を大事にする協議会としては課題に感じています。

現在、市連協の構成は、保護者会運営の学童保護者、指導員及び個人会員(保護者OB、指導員OB、指導員会に所属する市連協未加盟学童で現役の指導員)となっており、2001年には保護者会運営の17団体が加盟していた市連協も2021年現在、4団体5クラブにまで減少し会員数は200人を割りました。

近年では、保護者会運営から法人への事業継承と市連協脱会がセットになっているような状況で会員減に拍車がかかっています。

来年も、更に会員数が減ることが見えているため、今秋は、共に活動している皆さんの意見も聞きながら来年以降少ないマンパワーであまり無理はせず継続できる形に変えていこうと取り組んでいます。

やることの精査を進めるため、「市連協があつて良かったと思うこと」、「市連協でこれからも続けたいこと」を加盟学童(保護者会役員)で話し合い発表いただいたのですが、「横のつながり」、「単体では難しいことも団体の力で」、「学童の動向が知れる(予算や決まりごと、他地域情報)」といったキーワードがあがり、連絡協議会という名前が持つ意味の通り軸となることは変わらないということが確認できました。

本質や目的と言った軸を見失わず、変化を恐れず時代にあつた形に変えていく

『より良い学童保育の実現のために』

まだまだ道半ば。神奈川県・全国の仲間に刺激をもらいながらこれからも頑張っていきたいと思っておりますので皆さま宜しくお願いします！

年明けにある新年会長会、神奈川県学童保育研究集会で一緒しましょう!! 良いお年を一!

次号、2月号の「地域連協だより」は逗子市連協の予定です。お楽しみに!



神奈川県学童保育連絡協議会HP

<https://kanaken.onushi.com/>



<これからの主な予定>

- 12月16日(木) オンライン研修会第11回「学童保育の生活とあそび」
- 1月16日(日) 新春会長会・「日本の学童ほいく」普及推進会議〔オンライン〕
- 1月21日(金) オンライン研修会第12回「指導員のチームワーク」
- 2月13日(日) 第45回神奈川県学童保育研究集会〔オンライン〕

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。